

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）									
提出区分		実績	整理番号	1	課題区分	C	令和7年2月27日		
横断的な課題		誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり							
地域重点政策		誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり					上伊那地域振興局		
実施機関		上伊那地域振興局総務管理課			担当課	所属	総務管理課		
事業名		多文化共生防災促進事業				電話	0265-76-6803		
						E-mail	kamichi-kenmin@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	災害時における外国人の逃げ遅れゼロ及び避難所等における多文化共生の促進							
	現状と課題	○現状 現在、上伊那地域には約5,000人(人口比2.8%)の外国人が在住しており、今後も企業の人手不足等により外国人労働者の更なる増加が見込まれる。 ○課題 言語や文化、母国の環境等により災害への理解が不足している外国人が多く、平時における防災知識(ストック)や災害時における避難指示等の情報(フロー)の不足による逃げ遅れ、避難所におけるコミュニケーション不足等が懸念される。 能登半島地震でも技能実習生を中心に多くの外国人が被災したが、宗教上の理由で避難所の食事が食べられなかったり、コミュニケーションが取れずに自宅に戻ったものの、必要な支援情報が届かない外国人被災者が多数いたが、管内の市町村によっては外国人次第の取組が進んでおらず、市町村から県での取組の推進を求められている。							
	内容 (変更後の内容)	○「多文化共生防災セミナー」の開催 ・実施時期 令和7年1月27日 ・対象者 市町村防災、多文化共生担当、関係機関職員等 ・実施内容 外国人を含めた地域防災の課題や対応等を共有するとともに、外国人が支援者となり得ることも視野に入れた知識の共有や相互理解を促進する。 ○外国人を対象とした防災訓練の実施 ・実施時期 令和6年10月24日 ・実施内容 市町村の防災訓練の際に、外国人向けの内容を取り入れ、災害時の外国人次第について手順や課題等を整理するとともに、外国人向けの防災教育を実施する。 外国人を対象とした防災訓練については、市町村と連携して外国人向けに周知し、より多くの参加を呼びかける。 また、訓練時の貸し出しや災害発生時(通信不通時)に利用できるように多言語翻訳機を導入する。 多言語翻訳機については、市町村訓練が例年同時期に開催されることから、市町村数(8台)導入し、災害発生時にはリエゾンとともに各市町村に配備することで、避難所や災害多言語支援センター等で活用する。 また、平時には外国人来所者対応やイベント等、多文化共生事業全般に活用する。							
		事業期間 令和6年6月 ~ 令和7年2月							
事業費等	(単位:円)								
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額		備考		
	多文化共生防災セミナー		市町村、関係機関向けのセミナー実施		85,480		講師報酬 85,480円 多文化共生マネージャー全国協議会 講師報償費 @55,000円 旅費 @30,480円		
	外国人を対象とした防災訓練		多言語翻訳機の導入		127,600		多言語翻訳機 @15,950円×8市町村		
		合 計		213,080					
指標及び達成状況	成 果 指 標			目標値		成果		達 成 状 況	
	多文化共生防災セミナー参加者			30人		23人		○ 達 成	
	外国人の防災訓練参加者数			20人		7人		○ 一部達成	
								● 未 達 成	
事業実績・成果		○1月27日にNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会から土井佳彦氏をお招きして、災害時の外国人避難対応についての講演会及び意見交換会を開催し、各地域の取組について情報を共有した。参加者からアンケートを取ったところ、「多文化共生における防災の必要性を認識した」「来年度も継続的に開催して欲しい」など好評であった。上伊那各市町村からの参加を見込んでいたが、仕事の関係で宮田村からの出席が無かった。 ○災害時の外国人とのコミュニケーションツールとして有効性を認識してもらうために、多言語翻訳機を8台購入した。各市町村に1台とし、災害時の情報連絡員派遣時に持参してもらうことを想定している。平時は、市町村の防災教育に使用してもらい、有効性を確認していただくとともに市町村に導入を促して行く。今年度は、10月に箕輪町の防災訓練に貸出しを行った。当初、複数の市町村での防災訓練時の貸出を想定していたが、箕輪町以外での貸出希望が無く、外国人参加は7名で終わった。							
今後の方向性		外国人の防災対応の必要性を感じている市町村も多いことから、今後は「災害多言語支援センター」の設置方法を学ぶ講演会を開催するなどして、市町村の取組を促して行く。							

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	3	課題区分	C	令和7年3月31日	
横断的な課題		人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						
地域重点政策		人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						
実施機関		上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課、商工観光課	
事業名		上伊那女性・若者プロジェクト				電話	0265-76-6801(企画振興課) 0265-76-6829(商工観光課)	
						E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp(企画振興課) kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp(商工観光課)	
事業の概要	目的 (目指す姿)	地域の産業の担い手となる女性・若者等の人材を確保するため、就職情報や上伊那の仕事・暮らしの魅力情報発信、女性や若者にとって魅力ある働く場を作ることにより、都市部への流出を防ぐとともに、UIターンを促進する。						
	現状と課題	・上伊那広域連合が行った高校生へのアンケートによると、高校生の約3割が「都会で就職したい」と答え、その男女比は女性が1.5倍多かった。 また、企業の採用実績アンケートでは文系理系問わず女性の方が男性よりも少ない採用実績であった。 ・上伊那地域では、進学にともない都市部へ流入し、そのまま都市部で就職する学生が多いため、若年層の社会減が大きく、若者のUターンが課題となっている。(2020年の20～24歳 社会増減 -255人) 令和5年度は、就職情報提供サービスリーフレットを管内の高校生3年生や成人式、就活イベント等に計約4,700部を配布すると共に、全戸配布のフリーペーパーに広告を掲載したことにより、登録者数は令和5年4月1日現在253名から令和6年1月5日現在で350名、97名の増となった。 地域産業の担い手の確保のため、進学等により当地域を離れた学生等に就職情報を提供する手段を確保する必要がある。 ・令和5年度に若者の都市部への流出を防ぎ、UIターンを促進するため、上伊那広域連合が事務局である「上伊那×若者つなぐプロジェクト」のメンバーによる「SNSを活用した上伊那地域の仕事や暮らし魅力を発信するための研修会」を開催し、Instagramの効果的な活用に関する技術の習得を行い、情報発信を行った。(研修会 5回 Instagram フォロワー数 約100名⇒約240名) 今後も、都市部への流出を防ぎ地域産業の担い手を確保するため、SNSによる情報発信等により、上伊那の仕事・暮らしの魅力を情報発信していく必要がある。						
	内容 (変更後の内容)	1 SNSを活用した情報発信と「かみいなワカモノ交流会」の開催 上伊那広域連合が事務局となっている「上伊那×若者つなぐプロジェクト」と連携し、昨年度実施した「SNS研修会」で情報発信のスキルを身に着けた若者による、地域の魅力ある仕事や暮らしの情報発信を促進する。 「上伊那×若者つなぐプロジェクト」では、若者の離職や都市部への流出を防ぎ、また、若者目線で新しい地域づくりを考える一助とすることを目的に、「かみいなワカモノ交流会」を実施している。若者たちが、企業・団体・行政の垣根を超え、上伊那で生きる同世代と出会い、上伊那で暮らすことや働くことについて自由に話し合うことで、地域の魅力を再確認する取組である。 今年度は、「ワカモノXオトナ意見交換会、かみいなワカモノ交流会」を年3回(7月31日、11月2日、3月1日)程度開催し、その内容や成果等を、都市部と地元の若者に向けて発信する。 ※「上伊那×若者つなぐプロジェクト」メンバー:管内民間企業、市町村、広域連合、県の職員 交流会参集範囲:上伊那地域の若者 交流会会場:管内各地 ＜7月31日開催の意見交換会の概要＞ ・日時 :2024年7月31日(水)14:00～16:30 ・場所 :アルタ多目的ホール ＜11月2日開催の交流会の概要＞ ・日時 :2024年11月2日(土)13:30～16:00 ・場所 :一輪(箕澤屋) ＜3月1日開催の交流会の概要＞ ・日時 :2025年3月1日(土)13:00～15:30 ・場所 :コカゲ 2 SNSを活用した就職情報提供サービスの登録周知 ・広域連合等と協力して上伊那地域の就活イベント等の情報を学生に提供するため、「LINEを活用した就職情報提供サービス」のリーフレットを作成し、管内の高校生や就職活動を行っている学生、保護者等を対象に、高校や成人式、就活イベントやUターン就職促進協定締結大学等を通じて配布する。(8月から高校や大学、各種イベントにて配布)						
事業期間		令和6年7月 ～ 令和7年3月						
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考				
	上伊那×若者つなぐプロジェクト交流会	11/2 上伊那×若者つなぐプロジェクト交流会の開催	20,000	会場使用料				
	LINEによる就職情報提供サービスリーフレットの作成・配布	リーフレットの作成・配布	57,200	6,000部(口頭聞き取りによる)				
合計		77,200						

指標及び達成状況	成 果 指 標	目標値	成果	達 成 状 況
	InstagramフォロワーR(R5 250人)	500人	500人	○ 達 成 ● 一部達成 ○ 未 達 成
	就職情報提供サービス(LINE)登録者数(R5 350人)	420人	400人	
事業実績・成果	・就職情報提供サービスリーフレットを管内の高校生3年生や成人式、就活イベント等に計約5,000部を配布したことにより、登録者数は令和6年3月の約350人から約400名、約50名の増となり、従来より多くの求職者に就活情報を届けることができた。 ・若者の都市部への流出を防ぎ、UIターンを促進するため、上伊那広域連合と共同で事務局を務める「上伊那×若者つなぐプロジェクト」による交流会を11月と3月の2回開催し、その様子や年配者との意見交換会「ワカモノ×オトナ意見交換会」等プロジェクトの取り組み、上伊那で働き暮らすイメージを持ってもらう写真や動画の投稿により、Instagramフォロワー数が令和6年4月の約250名から約500名と倍増した。			
今後の方向性	・LINEによる登録リーフレット周知による登録者数の増加状況を検証しながら、効果的な情報発信により、就活イベントを実施する等上伊那広域連合と協力して引き続きUターン就職率の増加に努める。			

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年3月21日

提出区分	実績	整理番号	4	課題区分	C
横断的な課題	伊那谷の豊かな地域資源を活かした循環社会づくり				
地域重点政策	地域におけるゼロカーボンの実現に向けた推進体制の構築				
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属 環境・廃棄物対策課
事業名	上伊那ゼロカーボン推進事業			電話	8-236-2682
				E-mail	kamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	2050年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするためには、エネルギーはもとより、建築物や交通を含むインフラ、各種産業活動や日常生活など社会全般において、急速かつ広範囲にわたり脱炭素化を進める必要があり、一人ひとりの意識や行動の変容が求められる。 長野県ゼロカーボン戦略の重点方針「県民一丸の行動により持続可能な社会を構築」の実現に向け、誰もが気候変動の影響を理解し、脱炭素型ライフスタイルへ転換することを目指す。			
	現状と課題	・それぞれの市町村で地方公共団体実行計画における区域施策編の策定に取り組んでおり、早期に策定した伊那市、箕輪町の取組が先行している。 ・事業者においては、電気代の高騰により省エネ・再エネに関する関心が高まっているが、未だに具体的行動に移せていない企業が多く存在している。 ・2023年10月10日に、経営者協会上伊那支部、上伊那広域連合及び産業振興機構伊那センター・リサイクルシステム研究会の4者の協働による「上伊那ゼロカーボン・プラットフォーム」が発足し、産学官が参加する地域のプラットフォームとして、広く活動していくこととなった。			
	内容 (変更後の内容)	上伊那ゼロカーボンプラットフォーム「太陽光発電のススメ」の開催 産学官の多様な方たちが相互に情報を交換・共有することで、個別の取組を促進するとともに、相互の連携を図る。 1 日時 令和7年2月18日(火)午後1時30分から午後4時30分まで 2 場所 「inadani sees」ホール(伊那市西箕輪7200-27) 3 内容 (1)講演 八十二LinkNagano(株)電力事業部長 坂本 智徳 氏 箕輪町箕輪町ゼロカーボン・DX推進室長 川合 昭 氏 おひさま進歩エネルギー(株)取締役 蓬田 裕一 氏 (2)意見交換会 講師、参加者による意見交換(1グループ10名程度) 4 主催等 主催:上伊那ゼロカーボンプラットフォーム共同運営組織※ ※長野県経営者協会上伊那支部、上伊那広域連合、長野県上伊那地域振興局(公財)長野県産業振興機構伊那センター・リサイクルシステム研究会の4者で活動。組織としての予算はなく、イベントを担当する団体の予算により各イベントを実施している。			
	事業期間	令和7年2月 ~ 令和7年2月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	講演	先進的な取組等に関する情報提供	66,750	会場使用料6,750 出演者報償費60,000	
	合 計		66,750		

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	参加者	30名以上	35名	● 達成
				○ 一部達成
				○ 未達成
事業実績・成果	【実施結果概要】 1 実施概要 ・3名の講師がそれぞれ約30分程度講演を行い、太陽光発電に係る取組を説明 ・講演後、参加者は5グループに分かれ、講師とともに意見交換を実施 2 参加状況 ・35名の方が参加。内訳は次のとおり。 事業者:11社、14名 行政:14名 市町村議会議員:2名 その他個人等:5名 3 成果(参加者アンケート結果概要) (1)講演について 大変参考になった:13名 参考になった:8名 あまり参考にならなかった:0名 (2)意見交換について 大変参考になった:11名 参考になった:10名 あまり参考にならなかった:0名 (3)イベント提案について 9名から提案			
	今後の方向性	参考になったとのアンケート結果を受け、上伊那ゼロカーボン・プラットフォーム共同運営組織全体で年4回のイベントを実施する予定であることから、全体として啓発を効果的に実施できるよう、本事業が啓発すべき内容等を整理し実施していく。		

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C	令和7年1月21日	
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり						
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属	農地整備課	
事業名	スマート農業×田んぼダム実証実験事業				電話	0265-76-6816	
					E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	天竜川上流流域治水プロジェクトに位置付けられ「水田を活用した雨水貯留の取組」の推進に向けて、スマート農業技術等を活用した田んぼダムの展示ほ場を設置し、その効果の検証、成果や課題の整理を行うとともに、普及に向けて市町村や土地改良区、農業者等への理解醸成を図る。					
	現状と課題	・田んぼダムの取組は他県で導入が進む一方、県内では、令和3年度から長野市や千曲市が実証実験を開始しており、令和5年度には千曲市と民間企業が連携して自動排水栓の開発を進めている。 ・天竜川水系においては、田んぼダムの適地が少ないこと、また、取り組みの方法や成果がわからないことから、取組が遅れている。					
	内容 (変更後の内容)	・農業用水のパイプライン化を実施済みのほ場において、自動排水栓、堰板タイプの排水柵を設置し、その効果や、営農への影響、維持管理方法等を検証する。 試験ほ場の設置 2地区(駒ヶ根市下平地区、伊那市地区) (各地区において自動給排水栓、堰板型の排水栓、比較用のほ場等を設置) ・田んぼダムの普及に向けて、農業者や市町村、土地改良区等を対象とした研修会を開催する 【研修会概要】 ・日時:令和6年8月7日(水)10時～15時 ・場所:駒ヶ根市赤穂公民館及び現地 ・内容:田んぼダムの取組に係る研修会 ・参集者:農業者、土地改良区、農協等農業団体、市町村、県関係機関等					
	事業期間	令和6年4月 ～ 令和7年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額	備考	
	需用費		実証実験用資機材の購入 2地区分として		(696,630) 377,850	自動給水栓 @55,400×2×1.1=121,880 水位センサー @21,200×3×1.1=69,960 @17,800×4×1.1=78,320 @36,800×1×1.1=40,480 パイプライン用給水バルブ @18,400×2×1.1=40,480 流量調整板 @8,100×3×1.1=26,730	
	備品費		自動給水栓		(229,680) 206,690	自動給水栓 @187,900×1×1.1=206,690	
	報償費		研修会講師謝金		32,100	大学教授級 @6,450×4+@3,150×2=32,100	
	旅費		研修会講師旅費		41,000	大学教授級(新潟～駒ヶ根) 鉄道賃24,000+日当5,200円+宿泊費11,800円=41,000円	
	合 計				(999,410) 657,640		
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	研修会の参加人数			50人	59人	● 達成	
						○ 一部達成	
						○ 未達成	
事業実績・成果	・田んぼダムの取組について、駒ヶ根市に試験ほ場を2箇所設置するとともに、有識者による研修会を開催することで、農業者や土地改良区、市町村担当者の理解醸成につなげることができた。						
今後の方向性	田んぼダムの取組の普及に向けて、引き続きその効果の検証、理解醸成に係る取組を推進してい						

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	7	課題区分	C	令和7年1月8日		
横断的な課題		人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり					上伊那地域振興局		
地域重点政策		人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり							
実施機関		上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属	農地整備課		
事業名		上伊那地域のため池魅力発信事業				電話	0265-76-6816		
						E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	農業用ため池の有する用水供給や景観形成等の機能や、ため池にまつわる地域の魅力を県内外に広く発信することにより、管理や保全に対する意識を高めるとともに、ため池を核とした農村地域の活性化を図る。							
	現状と課題	・ため池は、農業用水を安定的に供給するほか、多様な生態系や豊かな景観を形成している一方、その多様な役割や保全の必要性は十分に認知されていないため、広く周知する必要がある。 ・農家戸数の減少やため池の老朽化が進む中、ため池が形成する美しい景観を次世代に残すため、より多くの人々へ魅力を発信する必要がある。 ・全国各地でため池の転落事故が発生しているため、施設利用上の注意喚起が必要である。							
	内容 (変更後の内容)	・パンフレットの活用により、ため池の役割や景観等の魅力を周知し、保全の大切さを認識してもらうとともに、施設利用上の注意喚起を行う。 ・ため池への訪問を促すきっかけの広報ツールとして、「信州ため池カード」を作成する。 ・SNS「Instagram(インスタグラム)」に「上伊那地域振興局農地整備課」のアカウントを立ち上げ、訪問者から農業資産フォトを募集し、同アカウントで紹介する(パンフレット、カード裏面にアカウントQRコードを記載)。 ・ため池のパンフレット等が好評で、市町村や観光施設、学校等から追加配付の強い要望があることから、増刷することで更なる効果発現を図る。 ・昨年度作成した棚田のパンフレット等についても、地元から農業資産の1つとしてPRしたいと要望があるため、増刷する。							
	事業期間	令和6年8月 ～ 令和7年3月							
事業費等	(単位:円)								
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画額		備考		
	印刷費		ため池パンフレットの印刷		137,610		(当初)44.0円/部×1,800部×1.1=87,120円 (増刷)22.95円/部×2,000部×1.1=50,490円		
	〃		ため池カードの印刷		128,370		(当初)35.0円/枚×1,800枚×1.1=69,300円 (増刷)21.48円/枚×2,500枚×1.1=59,070円		
	〃		棚田パンフレットの印刷		50,490		22.95円/部×2,000部×1.1=50,490円		
	〃		棚田カードの印刷		49,610		21.48円/枚×2,100枚×1.1=49,610円		
合 計				366,080					
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況	
	Instagramで紹介する写真への「いいね」件数			200件		※R7.1.8時点 221件		● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成	
事業実績・成果		・パンフレット、カードの設置により、地域の人々へため池の魅力を発信することができた。 ・県外イベントでパンフレットを配布することにより、上伊那地域の農村の魅力を幅広く発信することができた。 ・改良区や市町村等のため池管理者から「ため池の認知度が向上した」との声を多くいただいた。 ・これまでは、ため池の用途について知らない子どもたちが多かったが、パンフレットを通じて興味を持ってもらえた。 ・Instagramの活用により、ため池を始めとする農業資産や課独自の取組を幅広い世代に発信することができた。							
今後の方向性		・農業資産の場所、及びその地域で生産されている農産物についてまとめた「管内農業資産マップ」の作成・配布により、上伊那の農村地域の魅力をさらに発信していく。 ・引き続きInstagram等のSNSを活用し、情報発信を進める。							

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	8	課題区分	C	令和7年1月21日			
横断的な課題		伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					上伊那地域振興局			
地域重点政策		伊那谷の未来を創る「ひと」づくり								
実施機関		上伊那地域振興局農地整備課			担当課	所属	農地整備課			
事業名		農業水利資産の郷土学習事業				電話	0265-76-6816			
						E-mail	kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp			
事業概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の農業の維持・発展と、それを支える農業水利施設の適切な維持管理に向けて、農業水利資産を活用した郷土学習の場を設け、地域を愛し地域を支える人材を育成する。								
	現状と課題	・当地域には、水稻や果樹、花き等の農作物の生産を支える農業水利施設が多くあるが、農家の減少や担い手農家の高齢化が進む中で、こうした施設の適切な維持管理を図るためには、次代を担う若者への教育が必要である ・小学4年生の社会科の一環として、天竜川の右岸側の小学校を対象に「農業用水探検隊」を毎年開催しているが、令和5年度には、過去最多となる6つの小学校15クラス432名の児童が参加するなど取組が好評であり、天竜川の左岸側の地域からも参加希望がある。								
	内容 (変更後の内容)	・農業水利施設の教材を活用した現地見学会の開催 従来から開催している天竜川右岸側での見学会に加え、本年度からは新たに天竜川左岸側の小学校を対象に加え、「農業用水探検隊」を開催する。開催にあたっては、現場見学や学習教材による説明を通して、地域の農業とそれを支える農業水利施設の維持管理の大切さについて理解促進を図る。 今回、探検隊の開催にあたり、小学生にわかりやすく説明ができるよう、パネル等の資材を新たに購入したい。								
	事業期間	令和6年9月 ～ 令和6年12月								
事業費等	(単位:円)									
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考			
	印刷費		学習教材等印刷		649,000		三峰川周辺の農業水利施設 1,000部 @162×1,000×1.1=178,200 西天竜幹線水路等の冊子 1,000部 @202×1,000×1.1=222,200 農業用水探検隊説明下敷き 1,000部 @226×1,000×1.1=248,600			
	資材購入費		パネル、イーゼルの購入		(58,047) 56,573		ポスターパネル 9個 @2,270×9×1.1=22,473 イーゼル 5個 @6,200×5×1.1=34,100			
合 計					(707,047) 705,573					
指標及び達成状況	成果指標				目標値		成果		達成状況	
	農業用水探検隊の参加人数				600人		610人		● 達成	
									○ 一部達成	
									○ 未達成	
事業実績・成果		・農業用水探検隊の取組について、天竜川右岸側での開催に加え、天竜川左岸側の三峰川周辺の農業用水路を対象に新たな見学会を開催し、10校20クラスが参加し、参加児童・教員は過去最多の610名となり、地域の農業水利施設の役割等について広く周知することができた。 ・探検隊は、小学4年生の社会科の授業の一環として、南信教育事務所や南信発電管理事務所等とも連携することで、社会学習や発電の仕組みの観点も含め、横断的に取り組むことができた。								
今後の方向性		農業用水探検隊の取組を通じて、農業水利施設への理解が深まるよう継続して取り組んでいく								

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	9	課題区分	C	令和7年2月27日	
横断的な課題	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	地域の先端技術産業を学ぶ体験学習事業				電話	0265-76-6825	
					E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	林業分野における先端技術の体験や仕事の内容を魅力的に紹介することにより、若者の林業への就業促進を図る。					
	現状と課題	森林資源が成熟し主伐・再造林の取組が始まる中、手入れのされない森林の整備を進める森林経営管理制度が令和元年度から始まり、林業は益々の担い手を求めている。しかし、人口減少や高齢化により林業の現場で活躍する担い手の減少が続き、就労者確保は大きな課題となっている。 地域産業として林業を持続可能なものにするため、進路を決める過程にある高校生に林業を知ってもらう取組が必要である。 昨年実施したところ、林業大学校生による大学での講義や実習の様子、学校生活の説明を受け、進学を検討する高校生もいた。 また研修後のアンケートから、それまでほとんど関心のなかった生徒も含め、9割が林業に関心を持ち、約8割が進学や就労の選択肢の1つとして考えるようになった。 昨年は森林組合職員に就業状況等を伺ったが、今年は林業への就労に広く関与している長野県林業労働財団に、より広く林業について話を伺う。					
	内容 (変更後の内容)	○ 林業体験研修会の開催 次世代を担う上伊那農業高校の生徒(2学年)を対象に、林業に従事する講師等から仕事の内容をお聞きするとともに、先端技術を活用した林業機械の操作体験(シュミレータによる林業機械の疑似操作)や高性能林業機械の実機の見学、林業関係への就業や進学方法の紹介を行う。 実施日: 令和7年2月17日(月) 実施場所: 上伊那農業高等学校					
	事業期間	令和7年1月 ~ 令和7年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容	計画(実績)額	備考		
	林業体験研修会		林業従事者等を講師にした座学、シュミレータを活用した機械操作実技、高性能林業機械の見学など	143,000	ハーベスタ伐倒実演 143,000円		
	合 計			143,000			
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	アンケート結果で就職先や進学先として、「林業や木材関係を検討したい」との回答			65%以上	45%	○ 達成	
						○ 一部達成	
						● 未達成	
事業実績・成果	森林環境における林業の役割、位置づけや林業に関する仕事の内容と機械化等、業界の取組みを具体的に紹介し、一部の技術を体験することで楽しくわかりやすい研修会となるよう努めた。 木曽谷・伊那谷連携の取組みとして、林業大学校が進路の選択肢の1つとなるよう、学生によるミニオープンキャンパスを行った。 里山コース20名の全生徒が参加し、研修後のアンケートでは林業に関心を持った生徒が80%、進学や就労の選択肢として考えた生徒が45%となった。 「進学、就労」が伸び悩んだ理由は、林業関係の魅力を十分に伝えられなかったことと、高校生が求める多様なニーズに答えられなかったことだと思われる。						
	今後の方向性	継続実施し、林業の担い手確保に努める。次年度は、1ターンで林業に就労している方等を講師にお招きし、魅力を伝えてもらう。また、林業関係の行政、森林サービス産業(レクリエーション指導)、森林環境調査(コンサル)等、様々な選択肢を高校生に示すことで、関心を高めたい。					

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C	令和7年3月4日	
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり						
地域重点政策	安全・安心の基盤整備					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	放置竹林整備体制構築事業				電話	0265-76-6825	
					E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	放置竹林を地域住民自ら整備するための技術や、伐採竹を地域資源として活用するための知識を持つ地域リーダーを育成することで、地域課題を自らで解決できる地域づくりを進める。					
	現状と課題	上伊那管内の里山地域の一部では利用されず放置された竹林が拡大しており、この竹藪が見通しの悪さや風雪による道路への倒れこみを発生させるなど、通行の支障となっています。また、人家近くの放置竹林が野生動物の隠れ場所となることで人の生活圏との距離が縮まり、ツキノワグマの出没による人身被害や農作物への食害が増加し、里山での生活が脅かされています。 成長速度が速く繁殖力の強い竹への対処方法が一般にあまり知られていないことから、ますます放棄される竹林が増加し、整備が追い付かないことが課題となっています。このため、荒廃竹林の問題に関心の高い住民が必要な知識や技術を得ることで、この課題を自ら解決するとともに、その牽引役として組織的に活動できる地域リーダーを育成する必要があります。 昨年度の研修会では、宮田村内・伊那市内の地域リーダーの育成を目標として、実践を主体に進めた結果、目標数を達成し充実した研修となりました。今年度は他市町村への横の広がりに加え、伐採後の竹を資源として有効利用する方法を学ぶことで、さらなる竹林整備の加速化を目指し継続実施します。					
	内容 (変更後の内容)	○「竹林整備研修会」の開催 上伊那地域の竹林問題への関心の高い住民を対象に、地域住民が主体となって竹林整備を行っている事例を紹介するとともに、伐採後の竹を手軽に炭に加工できる無煙炭化器の実演を通して、地域資源として竹炭を有効活用するための知恵と技術を学びます。 実施時期：令和7年2月15日(土) 実施場所：伊那市富県 折戸直売所バス停付近 研修会名：竹林整備研修会(講義、実演) 講師：新山森林整備隊 代表 大竹明郁氏 他4名 主催：上伊那地域振興局、一般社団法人 長野県林業普及協会 上伊那支部					
	事業期間	令和7年2月 ～ 令和7年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額	備考	
	竹林整備研修会		放置竹林を見通しの効く健全な竹林に整備し、伐採竹を再利用するための技術研修		82,250	講師謝金 5名×16,050円×1回 参加者保険2,000円×1回	
	合 計				82,250		
指標及び達成状況	成果指標				目標値	成果	達成状況
	上伊那管内の地域リーダーの育成(R5実績 25人/2回)				15人	9人	○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成
事業実績・成果	竹林整備研修を3年連続で開催した結果、上伊那管内では竹林整備や竹利用の活動を行う団体が増えて定着してきたため、竹林整備研修会への新規参加の需要が低下し、当初の目標に比べて参加人数が下回る結果となった。 これまでは域外から外部講師を招いて研修を行わざるを得ない状況だったが、今回は管内で竹林整備活動を行う団体が自ら講師となり、域内の参加者に整備技術を教えることができたことは、これまでの研修会の成果が地域に浸透した結果と言える。自立して活動できる団体が増えたことで、本事業の当初の目的が概ね達成されたものと思われる。						
	今後の方向性	本研修会を3年間継続した結果、管内で竹林整備の活動を行う団体が増加し、市町村でも竹林整備の補助金を創設する等の成果が得られたため、本事業は今年度で一旦終了としたい。					

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	C	令和7年4月30日	
横断的な課題	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						上伊那地域振興局
地域重点政策	人が集い、新たな価値を共創する「つながり」づくり						
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	商工観光課,企画振興課 他	
事業名	上伊那観光PR事業				電話	0265-76-6829(商工観光課)	
					E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp (商工観光課)	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	リニア開業を見据え、上伊那地域のPRを県内外で実施し、上伊那地域への誘客を促進する。					
	現状と課題	上伊那地域への観光客は、令和4年の観光地利用者統計調査において延べ利用者数が354万人(全県比4.7%)、観光消費額は87億円(全県比3.1%)と少ない状況となっている。また、コロナ前(令和元年)に比べ利用者数が7割程度と回復しきっていない。 インバウンドについては上伊那の令和4年外国人延宿泊者数は963人泊で対全県比0.7%に留まっている。 令和5年度には9月9日(土)、10日(日)の2日間にかけて名古屋市栄において中京圏を対象とし、1,500名以上の方に観光パンフレットの配布や地域の特産品を景品とした抽選会等を行うとともに新聞でのイベント記事掲載を通じて上伊那の観光地の魅力をPRすることができた。 一方、アンケート結果を見ると上伊那地域の知名度が低く、隣県で比較的上伊那地域に近い名古屋においても4人に一人は上伊那地域を知らなかった。 今後、リニア中央新幹線開業により、セントレアを利用する海外旅行者や中京圏、首都圏から上伊那へ誘客しやすい環境となる一方、上伊那地域の認知度向上が課題となっている。					
	内容 (変更後の内容)	リニア中央新幹線開業を見据え、首都圏をはじめとする県外各地域や外国人に人気がある県内観光地で観光PRを行い、上伊那の観光地の認知度向上と実誘客に繋げる。 ○妻籠での主にインバウンドを対象とした観光PR 5月25日(土)、5月26日(日)(観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、アルクマによるPR) ○首都圏(埼玉県)西武ライオンズベルーナドーム球場で宮田村が行う「宮田村ナイターPR事業」と連携して上伊那の観光PR 8月15日(木)(観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、アルクマによるPR) ○中京圏(愛知県)名古屋市栄地下で市町村、DMOと連携して観光PR 9月7日(土)9月8日(日)(観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、ガラポンによる景品抽選会、アルクマによるPR) ○関西圏(大阪府)グランフロント大阪 無印良品で宮田村等と連携して観光PR 11月16日(土)、17日(日)(観光パンフレット・アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、アルクマによるPR) ○中京圏(愛知県)名古屋市金山駅で南信州地域振興局と連携して観光PR 2月23日(日)(観光パンフレット・農業資産パンフレット、アルクマ缶バッジ等ノベルティ配布、アルクマによるPR) ○中京圏(愛知県)中部国際空港セントレア ターミナル1 2F国際線・国内線到着コンコース壁面に、観光PRパネル 26枚を設置し、インバウンド(2月 パネル17枚)及び国内旅行者(3月 パネル26枚)を対象として観光PR(2月)					
	事業期間	令和6年5月 ～ 令和7年3月					
事業	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	消耗品費(イベント共通)	パンフレット・ノベルティ配布	267,707	・パンフレット封入用透明手提げ袋 36,520(4,000枚) ・缶バッジ148,500(ノベルティ 3,000個) ・マグネット21,560(ノベルティ 2,000個) ・缶バッジ等封入用透明袋6,127(6,000枚) ・ガチャマシン55,000			

業 費 等	妻籠宿観光PR事業	主にインバウンドを対象として観光パンフレット配布等	55,051	公用車ガソリン代12,024 通訳報償費37,800(2名) 通訳旅費(費用弁償)5,227(2名)	
	ブルーナドーム観光PR事業	関東圏を対象として観光パンフレット配布等	70,828	公用車ガソリン代10,028 ETC使用料10,200(小黒川スマートIC～入間) 旅費50,600(4名)	
	名古屋栄地下観光PR事業	中京圏を対象とし観光パンフレット配布、地域特産品を景品とした抽選会等	398,040	大同特殊鋼 Phenix スクエア使用料会場使用料218,350 観光PRのための抽選会景品代69,912(りんご・なし他180点) 公用車ガソリン代12,838 ETC使用料6,780(駒ヶ根IC～東新町) 旅費90,160(5名×2日、日帰り1名)	
	グランフロント大阪 無印良品観光PR事業	関西圏を対象として観光パンフレット配布等	182,405	公用車ガソリン代7,515 ETC使用料16,420(小黒川スマートIC～森口JC) 旅費 158,470(4名)	
	名古屋市金山駅観光PR事業	中京圏を対象として観光パンフレット配布等	95,925	公用車ガソリン代10,935円 ETC使用料(小黒川スマートIC～東別院 往復7,730円) 旅費 3,000円 旅費(企画)19,480円 農業資産パンフレット・カード 54,780円(農地整備課)	
	中部国際空港セントレア観光PR事業	主にインバウンドを対象として、上伊那の観光パネル掲示	363,259	観光PRパネル製作・設置・撤去委託料27枚349,800 公用車ガソリン代3,889円 ETC使用料9,570円	
合 計			1,433,215		
指標及び達成状況	成 果 指 標		目標値	成果	達 成 状 況
	パンフレット配布数		3100部	2900部	○ 達 成
	アンケート回収数		1300枚	1500枚	
	PRイベントを通じてアンケートを行った結果、上伊那を訪れたいと回答した人の割合		7割以上	9割以上	● 一部達成
					○ 未 達 成

事業実績・成果	【実績】 ・パンフレット配布により上伊那地域の観光地の魅力をPRした。当初は3,100部の配布を予定しており、東京都新宿でのPRイベントが中止となったものの2,900部とほぼ計画通り配布することができた。 - また、ガラポン抽選会の景品による上伊那の物産PR、アルクマと観光地をデザインした缶バッジ等の配布により、上伊那の魅力をPRした。 パンフレット配布内訳 5/25・26 妻籠宿観光PR事業 200部 8/15 ベルーナドーム観光PR事業 300部 9/7・8 名古屋栄地下観光PR事業 1,500部 11/16・17 グランフロント大阪 無印良品観光PR事業 600部 2/23 名古屋市金山駅観光PR事業 300部 ・名古屋栄地下観光PR事業を通じてアンケートを行った結果、1,500枚以上を回収し、上伊那の観光地の魅力をPRした結果、上伊那にとっても行ってみたい、行ってみてもいいかもと回答してくれた人が91.5%であった。 ・中部国際空港セントレアの国際・国内線コンコースに上伊那の観光パネルを掲出し、空港利用者へ上伊那の観光地の魅力をPRした。 国際線 2月 17枚 国内線 3月 26枚
今後の方向性	上伊那地域の認知度向上のため、引き続き県外でのPRを実施していく

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	12	課題区分	C	令和7年4月1日	
横断的な課題		誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり						
地域重点政策		誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり						上伊那地域振興局
実施機関		上伊那地域振興局			担当課	所属	商工観光課、上伊那農業農村支援センター	
事業名		地元酒米を使った地酒PR事業				電話	0265-76-6829(商工観光課)、0265-76-6841(上伊那農業農村支援センター)	
						E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp(商工観光課)	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	農地整備課、農業農村支援センターと協働で、地元の棚田で収穫された酒米(長野県で開発した「ひとごこち」「美山錦」「山恵錦」)を使った日本酒の魅力をPRし、日本酒の消費拡大による酒造産業の振興、酒米生産の増加による農業農村振興の保全を図る。						
	現状と課題	・日本酒の国内出荷量は、ピーク時(昭和48年)は170万kℓを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより年々減少し、令和5年では39万kℓまで低下している。(農林水産省調べ) ・パンフレット等の広報ツールの作成・配布により、棚田の有する機能・魅力の認知は図れている一方、棚田米を使った日本酒の知名度は未だ不足している。 ・今後酒造産業の衰退を防ぐとともに、棚田地域の更なる活性化を図るには、日本酒及び原料となる酒米の魅力発信・消費拡大が必要である。						
	内容 (変更後の内容)	「信州伊那街呑みあるき実行委員会」主催で9月28日(土)16:00~19:30に伊那市通町商店街等で開催される、上伊那地域酒蔵が集まる呑み歩きイベントで、上伊那地域振興局のブースを出展し、棚田・酒米・日本酒のパンフレット、棚田缶バッジ配布、棚田紹介パネルの展示や棚田米を使って醸造した日本酒の試飲を行う。 「上伊那の酒米」をPRするリーフレットを作製し、酒店・酒蔵で日本酒消費者向けにテイクフリーとするほか、生産意欲向上のため酒米生産者にも配布する。						
	事業期間	令和6年9月 ~ 令和7年3月						
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考	
	地元の棚田で収穫した酒米を使った地酒PR事業		地元の棚田米を使った日本酒の試飲等		37,473		試飲用日本酒24,730円(2,310円×3本 2,970円×3本 3,140円×1本 2,910円×1本 2,840円×1本) 試飲用プラスチックカップ 635円(60mm用×50ヶ入り)※原則、呑み歩き参加者はマイお猪口持参 定量ボーラー30mmℓ用(一升瓶からカップへ30注ぐ口)9,108円(1,518円×6ヶ) 呑み歩きイベントブース出展料 3,000円	
			上伊那産の酒米のPR		95,700		リーフレットの作製・印刷費 A4判三つ折り(@29円×3,000)+消費税	
	合計				133,173			
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況
	イベントのブース来場者数			210人		310人		◎ 達成
	リーフレットの配布数			3,000部		3,000部		○ 一部達成
								○ 未達成
事業実績・成果	R6.9.28「信州伊那街道秋の呑みあるき」に合わせて地元の棚田で収穫した酒米を使った地酒の試飲及びPRを行い、約310名の参加者に上伊那の地酒の魅力をPRすることができた。 R7.3.25「上伊那の酒米」リーフレットを作製、1,000部を伊那小売酒販組合を通じて酒店に分配、1,200部を醸造元酒蔵(6社)に分配し、日本酒の購入者等に配布した。また、酒米生産者等関係者に300部を配布、500部を局内関係課より配布・県民ホールへ設置し、連携してPR活動を行うことができた。							
今後の方向性	今後も引き続き、農地整備課・農業農村支援センターと連携し、地元の棚田で収穫した酒米を使った地酒のPRに努める。							

地域振興推進費事業計画・自己評価書

提出区分		実績	整理番号	13	課題区分	C	令和7年4月15日		
横断的な課題		誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり							
地域重点政策		誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり					上伊那地域振興局		
実施機関		上伊那農業農村支援センター			担当課	所属	上伊那農業農村支援センター		
事業名		上伊那地域の特産花き類の地元一般への認知度向上事業				電話	0265-76-6841		
						E-mail	kamiina-nogyo@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の花き類について、一般県民にも主要花き産地として認知されるとともに花への理解を促し、地産地消も含めた需要喚起と生産振興を図り、若者定着や花き関連産業による魅力的な地域づくりにつなげることをねらいとする。							
	現状と課題	上伊那地域は県内でも有数の花き産地で、アルストロメリア、トルコギキョウ、カーネーションなどの多くの品目が栽培されており、生産量は国内でもトップクラスであるが、地元一般県民の認知度が低い状況である。農政部を除く合庁内職員においても「花の産地であることを知らなかった」との回答率は53%で低かった。一般にもSNSで認知度を確認しながら花産地のPRに取り組む。							
	内容 (変更後の内容)	1 上伊那管内で生産される花のPRと情報発信 (1)PR事業 ①伊那合同庁舎県民ホールにおいて、長野県生花商組合、JA上伊那、地域生産者と連携し、年間を通して上伊那で生産される主要な花き類を出荷時期に合わせて種類別にリレー式で展示する(別紙計画)。ポップ、デジタルサイネージによる花の紹介のほか、来庁者に花の缶バッジや特色などを解説した花カード(種類別に6種)を配布して認知度の向上を図る。 ②各種イベントで「上伊那の花」のPR活動を行う。 ・JA上伊那と連携して名古屋市栄地下での上伊那農産物販売促進イベント9/7、8 ・就職説明会「かみいなシゴトフェス」(就活対象者及び企業向けPR) 12/28(土) JA上伊那本所 200名程度 ・切り花品評会「信州フラワーショーウインターセレクション」 1/23(木)、24(金)JA南信会館 500名程度 (2)上伊那の魅力発信ブログ「い〜な上伊那」で、毎月「季節の花の便り」として、上伊那の花の魅力を発信するほか、上伊那地域振興局で専用ホームページを開設し、「上伊那の花」に係る情報発信を行う。 2 上伊那の花の魅力講座(花カフェ)開催 長野県生花組合の協力により、認知度向上プロジェクト(略称「花プロ」)のキックオフイベントを含め、上伊那の季節の花の魅力講座「花カフェ」を3回(5/23、7/24、10/12)開催するほか、特に上伊那農業高校にも働きかけ「花プロ」授業をプロデュースし、若年層への「花育」を進める。 「花プロ」授業:9/20、11/14、12/5、2/中旬、3/中旬							
事業期間		令和7年5月 ~ 令和7年3月							
事業費等	(単位:円)								
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考		
	上伊那産花きの展示		生花の展示、アレンジメント		139,430		生花 116,330円(需用費) アレンジメント代23,100円(役務費)		
	上伊那産花きのPR		PR用缶バッジ・カード作製 県外でのPRイベントの実務 県内PRイベントでの装飾、バッジ・花カードの配布		299,383		缶バッジ 49,500円(500個×2セット=1,000個、需用費) 花カード 198,000円(6,000枚・12種類、需用費) 名古屋イベント・高速道料金往復 3,380円 (サカエカ、使用料) 展示装飾用諸材料18,753円 (紙、ペン、ラミネート紙等、需用費) PR用花材代29,750円(需用費)		
	上伊那産花きのイベント		花の魅力講座(花カフェ開催) 上伊那農業高校との連携(「花プロ授業」の実施)		283,615		生花代 159,280円(需用費) 花プロ授業諸材料費73,935円 (テーブルアレンジ、オフィス、実習用の筆ペン・絵具等、需用費) 講師謝金 50,400円(報償費)		
	合 計				722,428				
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況	
	カード配布枚数			1,500枚		2,100枚		● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成	
	花カフェ(花プロ授業含む)のべ参加者数			80人		127人			
事業実績・成果	5月から通年で11回、伊那合庁県民ホール前で「上伊那の花」展示を行い、来庁者からも好評を得た。 5月23日に上伊那の花認知度向上プロジェクトのキックオフイベント開催、庁舎職員参加(4名)によるアレンジメント教室(花カフェー環)開催。報道向けに周知した。 上伊那の「花カード」を発行し、各種イベントで配布した。専用ホームページを開設し、カードの詳細情報を閲覧できるようにした。 伊那市有線放送農業協同組合(いなあいネット)に7月、9月、10月、11月の4回番組制作に協力し、上伊那の旬の花のPR放送を行った。 10月12日に、地元企業(かんてんぱぱ)と協力し、「花カフェ」を開催、アレンジメントと花のミニ講座を実施、参加者からも好評。 7月24日に上伊那農業高校生3名にアレンジメント教室を開催、フローリストの職業に理解を深めた。 9月20日、11月14日、12月5日、2月21日、3月4日(計)5回、上伊那農業高校植物コース2年生を対象に「花プロ」with上農として授業を実施、花栽培の基礎からプロの技術の体験、花の販売実習、花関連業者との対話、花のイベント活用体験などを実施。生徒には、花関連産業を職業選択の一つとして理解を深めることができた。								
	今後の方向性		上伊那農業高校との連携を主として関係機関とともに継続してプロジェクトに取り組み、上伊那の花の魅力発信と花関連産業による若者の地元定着を目指す。						

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	14	課題区分	C	令和7年4月30日	
横断的な課題		伊那谷の未来を創る「ひと」づくり						
地域重点政策		地域産業の担い手の確保・育成					上伊那地域振興局	
実施機関		伊那建設事務所			担当課	所属	整備課整備第二係	
事業名		建設産業の魅力を実感プロジェクト事業 ～高校生が行う身近な公共施設整備体験～				電話	0265-76-6852 内線2443	
						E-mail	inaken-seibi@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	・官民協働による建設産業への理解拡大と次代を担う人材確保に向け、建設系学科高校生等を対象とした就労促進及び若手技術者の育成につなげる取組を実施しています。この取組の一環として、生徒に対して建設産業の魅力ややりがいを実感出来る機会を設け、建設産業への就職人数の増加を図る。(R6里山コース19名の20%4名、R5実績13% 2名)						
	現状と課題	・本事業では上伊那管内の建設系学科である上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科3年生の生徒に対して、伊那市春日公園の噴水跡地改修をフィールドとして、建設関係団体の技術者と協働で計画から施工まで携わることにより、建設産業の魅力や仕事のやりがい、業務内容や労働条件等情報を得るとともに、門知識、技術を習得する機会を提供している。 ・令和3年度に生徒が改修計画を立案、令和4年度から3年間で広場の整備を完了する計画。令和5年度までにインターロッキング舗装(約370㎡)による広場整備を実施している。(R4年度9回、R5年度7回) ・事業実施後のアンケート調査では、建設技術者の丁寧な指導や作業中の会話の中から建設産業の現状やものの作りの楽しさを実感できたと建設産業への理解が深まったとの感想があった一方、暑い中での体力を必要とする作業に、働くことの厳しさを実感したとの感想も聞かれた。建設技術者とのふれあいの中で、建設産業のやりがい、魅力をさらにPRできるよう、作業休憩時間の有効利用を検討する。						
	内容 (変更後の内容)	【噴水広場跡地改修】 ・建設産業の魅力を体感してもらうため、前年度に引き続き身近な公共施設である伊那市春日公園の噴水跡地改修工事現場をフィールドとし、建設関係団体の技術者と協働でインターロッキング舗装による広場整備を実施する。 ・建設関係団体の意見も取り入れ、前年度と同様に就職活動解禁前の4月から事業に取組むことにより、生徒が早い時期に建設産業を就職先として認知するよう取り組む。 ・内容：公園噴水跡地改修工事(丁張設置、インターロッキングブロック舗装(約180㎡)、木製ステージ製作) ・実施日時:IRブロック舗装 5/13～8/26の計6回(9:00～12:30)、木製ステージ製作 2/13、2/20 計2回 ・対象者：上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科里山コース3年生19人、2年生20名 ・実施場所:伊那市 春日公園内、上伊那農業高校内 ・協力等：伊那市、長野県建設業協会伊那支部、長野県測量設計業協会南信支部、長野県建築士会上伊那支部						
	事業期間	令和6年5月 ～ 令和7年3月						(単位:円)
事業費等	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額	備考		
	生徒による舗装工事		インターロッキングブロック等購入		698,856	IRブロック 590,810円 地先境界ブロック 62,920円 敷砂 32,452円 モルタル等 12,674円		
	生徒による木製ステージ製作		木製ステージ材料の購入		301,136	材木 198,242円 材木用金物 33,704円 塗料等 69,190円		
	合 計				999,992			
指標及び達成状況	成果指標				目標値	成果	達成状況	
	上伊那農業高等学校コミュニティーデザイン科里山コース(19名)建設産業への就職希望人数				コースの20%(4人)	1人	○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成	
事業実績・成果	【事業実績】 春日公園の噴水跡地のインターロッキング舗装による広場整備180㎡を上農高校3年の生徒と建設業協会伊那支部青年部との協働により、完成させることができた。また、早期に建設産業に触れていただくため、2年の生徒と長野県建築士会上伊那支部との協働による木製ステージの製作に取り組んだ。これらの実習での建設技術者とのふれあいを通じて、建設産業の実情について理解が深まった。 【成果】 ・令和6年度の建設産業への就職人数は、進学する生徒が多い中、1人に留まった。 ・生徒へのアンケート結果からは、皆で協力してモノづくりをすることの楽しさや新技術の実演、技術者の仕事ぶりに感心したとの感想がある一方、屋外作業の大変さを感じたとの感想もあった。建設産業に関心を持つとともに、仕事の内容を知ってもらう良い機会になったと考える。							
	今後の方向性							
今後の方向性		建設産業への理解拡大と次世代を担う人材確保に向け、生徒の皆さんに早期に建設産業の魅力をより実感できるよう2年生を対象を拡大していく。						

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年3月21日

提出区分	実績	整理番号	15	課題区分	C
横断的な課題	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
地域重点政策	誰もが安心して、快適に暮らし、人生を楽しめる「まち・暮らし」づくり				
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	環境・廃棄物対策課
事業名	南アルプスの植生回復による希少高山蝶・タカネキマダラセセリ赤石山脈亜種の保全対策事業			電話	0265-76-6817
				E-mail	kamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	南アルプス国定公園の仙丈岳周辺に生息し、絶滅の危機に瀕する高山蝶で国内希少野生動物種、長野県指定希少野生動物種のタカネキマダラセセリ赤石山脈亜種を保全するため、植生回復を行いながら、高山帯における生物多様性の維持を図る。			
	現状と課題	南アルプス仙丈岳周辺ではニホンジカによる食害で草本植生が破壊されており、食草などの消滅からタカネキマダラセセリ赤石山脈亜種の生息が危機的状況となっている。環境省レッドリストでは2017年に絶滅危惧Ⅱ類(VU)から絶滅の危険性が最も高い絶滅危惧ⅠA類(CR)に引き上げられ、本亜種の保全対策として防鹿柵設置による植生回復が急務である。			
	内容 (変更後の内容)	環境省、南アルプス食害対策協議会(事務局:伊那市)とも連携して、タカネキマダラセセリ赤石山脈亜種のかつての生息域に試験的に防鹿柵を設置し、本亜種幼虫の食草であるイワノガリヤスを主体とした植生回復を試みる。 次年度は南アルプス食害対策協議会の事業の一環として、関係機関と連携を強化し、防鹿柵の設置・撤収作業を継続し、食害防止と植生回復の効果を検証を行う。将来的には、植生回復後、近隣の極限された産地の増殖個体を導入し、野生復帰を図る。 ・防鹿柵の設置期間 R6年8月～R6年11月まで			
	事業期間	令和6年7月 ～ 令和7年2月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	防鹿柵設置事業	防鹿柵設置資材の購入	255,349	180m分税抜き価格232,136円	
	合 計		255,349		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	植生回復による草本植物再生エリア		1カ所	1カ所	● 達成
					○ 一部達成
					○ 未達成
事業実績・成果	R6.7.19 南アルプス仙丈ヶ岳藪沢において環境省関係者と現地調査を実施、防鹿柵設置による草本植物再生エリアを決定した。現地ではニホンジカによる草本の食害が確認された。 R6.9.9～10 環境省、伊那市役所、南信森林管理署の協力により柵資材を歩荷により現地設置場所まで運搬し、1カ所(2地点)で防鹿柵を設置した。 R6.10.3 南アルプス食害対策協議会の事業として、防鹿柵の撤収作業を実施。概ね1カ月の設置であったが、柵の設置により草本類の食害の進展は抑えられた。 R7.2.6 環境省主催による「令和6年度タカネキマダラセセリ赤石山脈亜種保全に係る意見交換会」に参加、本事業について報告を行った。環境省では、「第1期タカネキマダラセセリ赤石山脈亜種保全事業実施計画」を策定、防鹿柵設置によるニホンジカの食害影響を排除した試験的保全区の創出が計画に記載され、本事業によりタカネキマダラセセリ赤石山脈亜種の保全が前進することとなった。				
今後の方向性	次年度の南アルプス食害対策協議会総会で本事業の継続を承認予定、防鹿柵設置による植生回復を評価しつつ、野生復帰を目指した保全計画を進める。				

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	16	課題区分	C	令和7年(2025年)5月14日	
横断的な課題		高速交通網開通の効果を地域づくりに最大限に活かす基盤整備						
地域重点政策		高速交通網開通の効果を地域づくりに最大限に活かす基盤整備						
実施機関		上伊那・南信州・木曽地域振興局、建設部リニア整備推進局			担当課	所属	リニア活用・企画振興課	
事業名		リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりに関する講演会及び懇親会(リニアNAGANOサロン)事業				電話	8-237-3016	
						E-mail	minamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線の開業を見据え、その整備効果を県内に広く波及させるため、経済界を中心とする関係者の皆様と県とが一体となって地域活性化の実現に取り組む契機とする。						
	現状と課題	リニア中央新幹線の開業を見据え、その整備効果を県内に広く波及させるための具体的な取組みについて、「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」で意見交換をしてきているが、現時点で新たな開業時期が明らかとなっていない状況である。 一方で、リニア中央新幹線の開業は、地域活性化の契機として過去に類例のないものであり、開業までの期間においても地域活性化の実現に向けて歩みを止めることなく、進めていく必要がある。その過程で、行政と地元経済界との連携がなお一層重要となることから、伊那谷経済界をはじめとする関係者の皆様とリニアに関するまちづくりに向けた機運の醸成が必要である。						
	内容 (変更後の内容)	【開催日】令和6年12月23日 【開催場所】シルクホテル(飯田市) 【内容】 第1部「まちづくりに関する講演会」(午後4時から午後5時30分まで) テーマ:リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりの方針等について 登壇者 ① 天野 正治氏 国土交通省大臣官房審議官(国土政策局担当) ② 杉原 伸宏氏 信州大学副理事・副学長(新産業創出・スタートアップ)・教授 アドミニストレーション本部 副本部長(CSO) 学術研究・産学官連携推進機構 学術研究支援本部長 第2部「懇親会(リニア NAGANO サロン)」(午後6時から午後8時まで) 出席者:阿部 守一長野県知事、地元市町村や経済界等関係者 リニア中央新幹線の開業に向けたまちづくり等についての意見交換を実施						
	事業期間	令和6年12月 ～ 令和7年3月						
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画額		備考	
	講演会及び懇親会(リニアNAGANOサロン)		伊那谷の経済界をはじめとする関係者の皆様を対象とした講演会及び懇親会(リニアNAGANOサロン)を開催		218,040		講師等旅費67,340円 会場使用料150,700円	
	合 計				218,040			
指標及び達成状況	成果指標				目標値		成果	達成状況
	まちづくり講演会参加者数				100名		136名	達成
	リニアNAGANOサロン参加者数				70名		94名	
事業実績・成果	令和6年12月23日にシルクホテル(飯田市)において、リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりに関する講演会(136名)及び懇親会(リニア NAGANO サロン、94名)を開催した。 講演会では、天野氏から「リニアを活かした未来の地域づくり」について、杉原氏から「信州大学が産業界や地域と進める未来都市構想」をテーマに講演いただいた。 懇親会(リニア NAGANO サロン)では、知事や市町村長、地元経済界の方などがリニア中央新幹線の開業に向けたまちづくり等についての意見交換を行った。							
	今後の方向性	リニア中央新幹線の開業に向けて地域の皆様がまちづくりのビジョンを共有しながら、継続的な機運醸成をすることが重要である。引き続き、まちづくり等についての意見交換の場を設定していく。						

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分	実績	整理番号	17	課題区分	C	令和7年3月31日	
横断的な課題	22世紀も二つのアルプスにライチョウが生息し続けられる「脱炭素社会」づくり						
地域重点政策	22世紀も二つのアルプスにライチョウが生息し続けられる「脱炭素社会」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	上伊那産地域材利活用のPR				電話	0265-76-6825	
					E-mail	kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	地域住民の地域材利用の意識醸成と地域材利用拡大及び木質バイオマス利用の普及を促進するため					
	現状と課題	地域材の9割が地域外へ丸太のまま出荷されており、地域全体として域内加工・域内消費による森林資源の循環利用の促進が課題である。 上伊那管内(上伊那森林組合)のペレット出荷量は全県の木質ペレット出荷量の7割を占めているが、上伊那管内のペレットストーブ設置台数が伸び悩んでいる状況にある。 木質ペレットはカラマツやアカマツの間伐材からできており、木質ペレットを使用することは、上伊那地域の豊富な森林資源の有効活用にもつながり、また地域林業の活性化を図ることができる。					
	内容 (変更後の内容)	【地域材利活用のPR】 合同庁舎を訪れる県民に、地域材を活用しリフレッシュした県民ホールで木の調度品やペレットストーブのある暮らしに接する機会を提供するとともに、木質ペレットの成り立ちや使うことのメリットについてPRを行う。ペレットストーブは県民ホールに常設する(使用は冬季のみ) 対象者 上伊那合同庁舎を訪れる県民 場所 上伊那合同庁舎2階 県民ホール 時期 令和7年2月～3月 内容 設置した腰板、木の調度品(テーブル・椅子等)の良さをPR 木質ペレット実物・木質ペレットやペレットストーブの説明動画の再生					
	事業期間	令和7年2月 ～ 令和7年3月					
	(単位:円)						
事業費等	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額	備考	
	ペレットストーブ付属品		来庁者に木のある暮らしを思い描けるような空間を演出する		18,920	アッシュコンテナ 1個×13,200円 温度計 1個×3,740円 ガラスクリーナー 1個×1,980円	
	木質ペレット購入		ペレットストーブの暖かさを体験できるよう必要な燃料を購入		40,810	木質ペレット 70袋 × 583円	
	ペレットストーブ設置費		ペレットストーブ設置		928,070	ペレットストーブ設置工事 ストーブ: 429,000円 工事費: 499,070円	
	合 計				987,800		
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	アンケート結果で木質ペレットに関心を持つと回答			40%	80%	● 達成	
						○ 一部達成	
						○ 未達成	
事業実績・成果	・デジタルサイネージにより県内における木質バイオマスエネルギーの地消地産の事例紹介や木質ペレットの入手情報を紹介し、その魅力を伝えることができた。 ・現代的で洗練されたデザインや従来のペレットストーブに比べより省エネと利便性を向上させた最新のペレットストーブ設置により改めて木質バイオマスエネルギーを使用した暖房設備の魅力をPRすることができた。 ・アンケートの結果で、上伊那地域で木質ペレットが生産されていることは知られており、ペレットストーブや薪ストーブに興味があると回答した方が8割を占めた。しかし、自宅でペレットストーブや薪ストーブを設置している方は、2割にとどまった。 ・ペレットストーブのPRパンフレットを配布し、木質バイオマスエネルギー利用促進に向けた普及啓発を実施した。						
今後の方向性	木質ペレットの普及を促進するため、「炎のある暮らし」パンフレットを各種イベント等で配布することに加えて、SNS等でPR動画のリンクを掲載するなど、冬季に向けてPR活動を継続して実施したい。						

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	18	課題区分	C	令和7年4月18日	
横断的な課題	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり						
地域重点政策	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					上伊那地域振興局	
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課	
事業名	クール伊那谷アニメ産業プロモーションプロジェクト				電話	0265-76-6801	
					E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	アニメーション産業では、デジタル化進展に伴い、地方展開するアニメ制作会社も出てきている中、地方におけるアニメ産業の魅力と働く場について、現状と課題を考え、リニア時代の伊那谷における新たな可能性を考えるきっかけとする。					
	現状と課題	・旧伊那地域では、多くの若者が、進学にともない都市部へ流出し、そのまま都市部で就職するため、若年層の社会減が大きく、女性はその傾向が更に顕著。 ・女性・若者から選ばれる上伊那になるために、魅力ある働く場が必要。 【アニメ産業をテーマとする背景】 アニメ産業の状況 ・アニメ制作のデジタル化と分業化が進んだことから、地方での制作が可能となり、コスト等の理由も加わって地方で制作するアニメ関連企業も出現してきた。 上伊那地域の特徴 ・伊那市は、デジタル化を推進し、県下でも先進的な取組をしており、アニメ産業の受入れが期待できる地域である。 ・将来は、リニア開通により、首都圏、中京圏に近い地域となる。 ・首都圏と比較し、事務所設置等に係るコストを抑えられ、場所の提供も容易である。					
	内容 (変更後の内容)	地方におけるアニメ産業の魅力と働く場について、その現状と課題を学ぶ講演会を通じて、リニア時代の伊那谷における新たな可能性を考えるきっかけとする。 (1) 日時、場所 令和7年2月27日(木) 13:30～15:30 伊那市創造館 講堂 (2) 内容 ＜講演＞□ 「働き方の観点から考える地方のアニメ産業～デジタル化とフリーランスの視点から～」 講師 松永 伸太郎(まつなが しんたろう) 長野大学企業情報学部准教授 ＜意見交換会＞ 講師と参加者 ＜参集範囲＞一般の方、行政の企画担当者など ＜参加者＞ 20名					
	事業期間	令和7年2月 ～ 令和7年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	講演会	講演会	60,900	講師謝金: 21,400円(報償費) (5,350円(准教授級)×4H) 講師旅費: 11,040円(旅費) 使用料: 23,460円 (会場費9,500円コピー代12,000円 高速代1,960円) 需用費: 5,000円(用紙代)			
	合 計		60,900				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	講演会参加者		20名	20名	☒ 達成		
					☐ 一部達成		
					☐ 未達成		

事業実績・成果	○実施概要 ・講演会 「働き方の観点から考える地方のアニメ産業～デジタル化とフリーランスの視点から～」をテーマとした講演会を開催。近年のアニメ産業の動向（デジタル化と地方展開）、地域にアニメの仕事がある意味（「仕事・働き方の選択肢」という魅力）等の内容でご説明いただき、最後に、職業選択の幅を広げることは若者の定着を促しうるといった、視点も提示していただいた。 ・参加者との意見交換会 「アニメ産業の地方展開が進んだ要因」「地方展開を進める行政としての有効な施策」「空き店舗の活用の可能性」について等、参加者から多くの質問があり、活発な意見交換会となった。 ○参加状況 ・20名（当初、25名の参加申込があったが、体調不良により、当日、急遽5名欠席となった。） ・短時間ではあったが、8名の方から質問があった。 ○成果 ・若者・女性から選ばれる地域になるために必要な視点を、学ぶことができた。
今後の方向性	今回の講演会を踏まえ、若者・女性に選ばれる地域となるため、地方展開しているクリエイティブ産業（アニメ、ゲーム等）の先進地視察やパネルディスカッション等を開催する。

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年4月28日

提出区分	実績	整理番号	19	課題区分	C	
横断的な課題	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					
地域重点政策	伊那谷の未来を創る「ひと」づくり					
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課
事業名	ウッドチェンジデザイン事業				電話	0265-76-6801
					E-mail	kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域計画において、二酸化炭素吸収増に向けた取り組みとして、森林整備の推進や、ウッドチェンジ(生活必需品等の木質製品への転換)により地域産材の活用を推進することとしている。 上伊那地域の木材(アカマツ)を使用した身近な日用品である壁掛けラックを、県内出身美術大学生が製作する。そのラックを合庁に設置しPRすることで、アカマツは誰でも手軽にDIYで活用しやすい木材であることを、上伊那地域の人々に広めることを目的とする。				
	現状と課題	・二酸化炭素の排出抑制やゼロカーボンの取組により、国産材(県産材)に対する関心が高まる中、生活用品等を木質製品への転換(チェンジ)する格好の機会となっている。 ・上伊那地域では、民有の人工林の樹種別構成は、全県と異なり、アカマツの割合が高い(上伊那27%、全県14%)が、松枯れ地域の拡大により松枯れする前に、アカマツの利用促進が課題とされている。 ・アカマツを活用したラックを局長室に展示・使用することで、地域材を使った日用品の魅力をPRし、ウッドチェンジと地域材の普及・啓発の取組を進めたい。				
	内容 (変更後の内容)	・上伊那地域の木材(アカマツ)を使用した地域PR用パンフレット掲示用の壁掛けラックを、県内出身の現役美術大学生が製作。 ・局長室にラックを設置し、来庁者が地域材を使った製品に直接触れる機会を設け、ウッドチェンジと地域材の普及・啓発を行う。 パンフレット掲示用壁掛けラック製作 3台				
	事業期間	令和7年2月 ~ 令和7年3月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考		
	パンフレット掲示用木製ラック製作・設置	パンフレット掲示用木製ラックの製作・設置	58,674	上伊那地域材22,000円(需用費) 製作用部品 14,214円(需用費) (マグネット、レザー、接着剤) 資材・ラック運搬 22,460円(旅費)		
	合 計		58,674			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	来庁者へのラック紹介の人数		50名	60名	☒ 達成 ☐ 一部達成 ☐ 未達成	

事業実績・成果	上伊那地域の木材(アカマツ)を使用した壁掛けラックを、局長室の入り口正面に設置。 ラックには、伊那谷をPRする観光パンフレット、上伊那地域計画概要版などを、自由に手に取ってもらえるように掲示した。 来庁者に、上伊那の観光パンフレット等を手にしていただくと同時に、上伊那地域の木材を使った日用品に触れるていただくことで、上伊那地域の魅力をPRすることができた。 また、地域の木材そのものの魅力に加え、日用品に活用しやすい資源であることを、実感してもらえる機会となった。 令和5年度～6年度に地域振興局で取組んだ県産木材による県民ホールのリニューアルと併せ、上伊那地域の木材を使った日用品(壁掛けラック)としてブログでのPRを行った。 ラック完成時期が少し遅れてしまったが斬新なデザインだったため多くの人に紹介できた。
今後の方向性	上伊那地域の木材を使った日用品(壁掛けラック)として来庁者へのPRを継続し、上伊那の地域産材の活用を推進する。